

## 大月～小菅～上野原パトロールの巻

大月土木事務所道路維持担当  
(昭和59年11月 第228号)

10月初旬のある日、今日は、大月～小菅～上野原をパトロール予定だ。今朝は冷え込んで、涼しいというより寒いくらいだ。

パトカーのタイヤ、燃料等を点検し、10時に事務所を出発する。国道20号を東へ走り、駒橋の信号を左折し(主)大月奥多摩線に入る。高月橋を渡り、岩殿隧道を抜ける。隧道前後にある、花いっぱい運動の花壇の花も盛りを過ぎたようだ。

田無瀬、浅川入口と通過する。畑倉小学校から浅川入口までの間は、電話の原因者復旧舗装工事により、路面が見違えるように良くなった。

瀬戸の八坪から道は未改良になる。道幅は狭く、曲がりくねって対向車に気をつけながらの運転だ。途中2箇所ほど測量をする。舗装の傷んでいる所が多く、舗装災害で復旧する箇所もあり、また、道路補修事務所にも度々オーバーレイをしてもらっているが、まだまだ悪い所がかなりある。

小金沢第一トンネル、第二トンネルをくぐり、小金沢の集落に入る。ここには溪流釣り場があり、民宿が数軒ある。駐車場には京浜ナンバーの車が多い。このあたりは、深城ダムが完成した暁には、水没する運命にある。

小金沢橋から先は、しばらく未舗装の砂利道が続く。今は改良工事の真っ最中で、今年度中には、小金沢橋から先は全て舗装道になる予定だ。

滝の沢橋から小菅村小永田までの約15kmは、急勾配、狭小幅員で、曲がりくねった典型的山岳道路である。それでも舗装されているのが救いである。この区間は、落石、崖崩れが多く、様々な工法で対策しているが、ちょっとした雨が降ると必ず何箇所か崩落がある。路面に注意しながら走っていると、巨石が道路に落ちている。車から降りて片付ける。

再び峠を登る。それにしても峠までの道のりのなんと長いことか。道路を開いた先輩達の苦勞が偲ばれる。この松姫峠の付近は紅葉が美しいのだが、まだ少し時期が早く、木々は青々としている。この辺りでは、時々サルやリスなどの姿を見かける。

峠を下り、小菅村に入る。人口1,200人程の小さな村であるが、東京に近いこともあり、恵まれた自然を生かしたキャンプ場、ヤマメや鮎の釣場などがあって、近年、夏には結構な賑わいを見せる。

役場前から小菅川に沿って都県境に向かう。所々舗装の傷みが激しい。この区間も落石の多い所で、最近も落石が自家用車にぶつかる事故があった。モルタル吹付けした道路法面の上から落ちたもので、人身事故にならなかったのは不幸中の幸いだ。ここで、落石防止網を施工するための測量をする。東京へ通じるこの道は、小菅村にとっても重要な路線である。

都県境でUターンする。小菅村で昼食をとり、小永田から(主)上野原丹波山線に入る。鶴峠付近は、以前、路面の凸凹で振動し腰が痛くなるくらいだったが、先日施工したスタビ舗装でかなり良くなった。しかし、路面の荒れている所も多い。

長作を通り上野原町に入る。大羽根峠を越え、飯尾の集落を過ぎる。鶴川沿いに走るこの道は、大変痛みが激しく、穴が所々あいている。合材やレミファルトで修復するが、そのそばから壊れてしまう。飯尾から猪丸まで路線を通じて舗装が悪く、今回舗装災害により延長約2.5kmを復旧することとなった。また、電話の原因者復旧によっても約2kmを舗装されるので、かなり改善されることになる。

猪丸で(主)上野原丹波山線から(主)上野原五日市線に入る。用竹から新井にかけて、昨年度の原因者舗装復旧により見違えるように路面が良くなった。

上野原からは国道20号を一路事務所に向かい、今日のパトロールも終りである。